

1. 研究目的

現在の高校生と大学生との教科書には難易度に大きな開きがある。この開きを埋めるため、大学生以上の女性もしくは女子学生の興味を引きやすい「恋愛模様」に見立てた教育ツールを作成し、化学の理解力を促す。

2. 調査内容(事前調査および結果)

大学生や社会人は高校生と比べ持ち歩く荷物は少なくなり、それに比例して持ち歩くかばんも小さくなる。また、教科書などの書籍を読む場所は通勤通学時間帯が多く、立ったままでも読みやすい必要がある。これらを考慮した寸法と製本はコストと生産効率から寸法「四六判 128×188mm」製本法「並製本(無線綴じ)」に決定した。

表紙の紙は質感と発色が異なる4種類を、アンケート形式で調査し、ユーザーが好む紙をおおまかに割り出した。その結果、特殊な材質なものよりも慣れ親しまれた物の方が好まれる傾向にあった。実際に出版するときにはこれに近いものを使用する。

中の紙は文字の可読性や読者の目の疲労を考慮し印刷し、比較した。黄味の強いクリーム色は目の疲労は抑えられたが重要な赤い文字の可読性に問題があり、逆に白い物は目に当たると反射し見えづらく長時間の黙読には適さなかった。これらにより、双方のバランスをとれた用紙を選んだ。

3. アイデア展開

化学理解で重要な周期表は印刷の都合上、2色印刷が前提のため色枠、斜線、塗りつぶしを使い見た目の美しさよりも、わかりやすさを重点として提案する。

元素の周期表

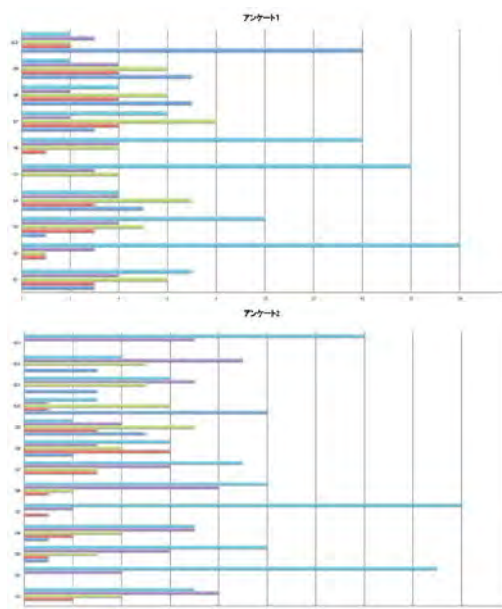
4. 最終提案(作品)

構成とイラストが加わった状態の物(製本前)を使って放送大学の学生の方々に5段階評価でアンケートを行い、読んだ前後で化学への関心が高まるか検証した。

アンケート内の質問例

Q7.デザインやタイトルで化学(科学)の本を本屋さんで手に取ってみようと思いますか?

Q11.物語を読んだ後で、化学(科学)に対する考え方が変わりましたか?



集計しグラフ化することで、この書籍を読んだ前よりも読んだ後の方が化学への関心が高まったことが読み取れた。

5. 今後の発展

出版後、読者の意見を取り入れ改訂する必要がある。

文献

[1] 株式会社第一印刷

http://www.daiichiinsatsu.co.jp/200_support/2313_booksize.html

[2] 荒瀬光治

<http://www.amudesu.co.jp/legibility/legi-5.html>